

「環境」と「経済」が両立できる社会の実現を一緒に目指していきましょう。

～私たち日本人は、物を大事にする江戸時代からのDNAを受け継いでいるはず。江戸の職人文化を今日の技術に活かして、循環型社会のリーダー都市神戸に～

江戸時代のリサイクル

江戸時代は、植物を中心に資源がうまく循環され、環境保護の面で優秀な社会でした。古くなったものは、修理して使う・古物商に売る・原料として再生する、など、とにかく物を大事にし、現在、重要視されるリサイクル・リユースのために、数々の商売や職人さんの仕事が生きていました。

リサイクル商

- ・質屋
- ・古着屋、古着仕立て屋
- ・古道具屋
- ・古鉄屋
- ・小道具屋

修理屋

- ・羅宇屋
- ・鋳掛け屋
- ・瀬戸物焼き接ぎ
- ・下駄歯入れ
- ・たが屋

江戸時代は、植物を中心に資源がうまく循環された社会であり、物を大事にしながらも、古物商や数多くの修理屋さんが生計を立て、経済が流れる仕組みがありました。

地球温暖化について

二酸化炭素やメタンガスなど、温室効果ガスの排出が増えて、地球の気温が上がってしまいました。

このまま対策をしないと、2100年には、今より1.4℃～5.8℃気温が高くなってしまいます。

過去140年間の気温と将来の気温上昇の予測



そして産業革命が起き、生活は豊かになりましたが、石炭や石油を燃やすことで、温室効果ガスが増え、このままでは地球の気温が1.4℃～5.8℃も上がることになります。

温暖化で地球はどうなるの？

海面の上昇

温暖化が進むと海面が2100年には約1m上昇する可能性があるといわれています。小さな島々は沈んだり、海岸の砂浜がなくなったり、日本でも都市部が水没するおそれがあるといわれています。また、洪水が起こりやすくなる可能性があります。



水不足

もともと水が少ない地域では、さらに水不足になるところがあります。



熱帯の病気が流行

日本でもマラリアが流行するおそれがあるといわれています。



作物がとれなくなる

今まで作っていた農作物が食べられなくなり、飢饉になったりして食糧が足りなくなる。



地球温暖化で北極の氷が溶けて海面が上昇し、水没してしまう国や、深刻な水不足、一方で異常気象による水害、マラリアの流行などが懸念されます。

京都議定書

1997年に京都に、世界の国々が集まって

温暖化について話し合って、

約束を決めました。

京都議定書

日本の約束の内容は、

2008年から2012年の間に、温室効果ガスの排出量を1990年の時点と比較して6%削減すること

ところが！！

●日本の温室効果ガス排出量

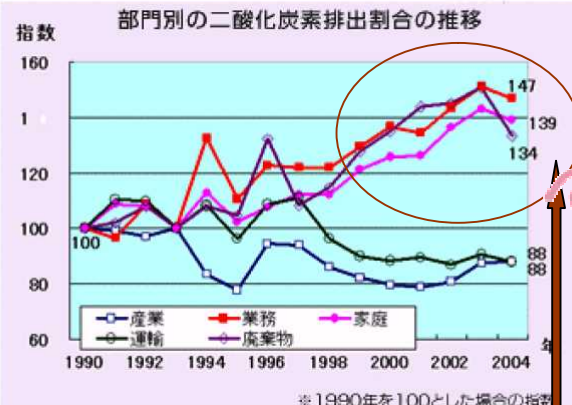
2003年の時点で、基準を8.3%も上回っているから、14.3%も減らさないとはいけないのね。

1990年 2003年 2008年～2012年

資料：環境省

地球規模で考えていこうと、京都議定書が決議され、昨年から発効されています。日本は、1990年から二酸化炭素の排出を6%下げる約束をしています。

神戸市の状況は？



家庭、業務、廃棄物は1990年から比べて逆に1.3～1.5倍にも増加！！
神戸市でのCO₂排出量は、家庭・業務（お店や事務所）・廃棄物の部門で1.3～1.5倍に逆に増加！！

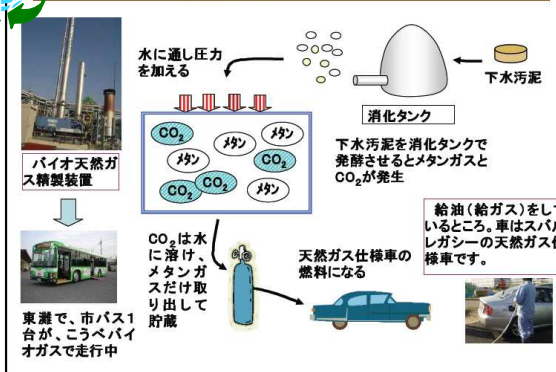
神戸市ではごみの減量・資源化に向けた6分別が定着しつつあり、下水汚泥を活用したこうべバイオガスなどの先進的な事例はありますが、「市民に向けた抜本的な啓発PR」、「資源循環を加速させるための環境ビジネスを発展させる施策」については不十分といえます。

バイオ燃料には、サトウキビなどから作ったエタノールをガソリンに混ぜる、更にETBE添加剤にして混ぜる、廃油からディーゼル油を精製するなどがあり、最近国も力を入れています。優遇施策によりバイオエタノールやバイオディーゼルの普及を加速させることで、市場で競争力のある燃料へと発展させる必要があります。

バイオマス先進事例 バイオ燃料



バイオマス先進事例 こうべバイオガス

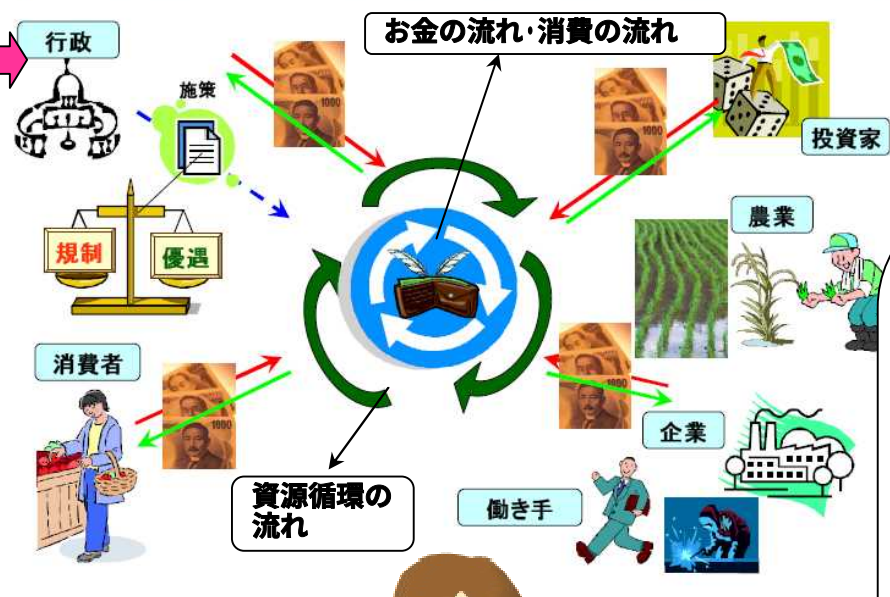


神戸市での先進的な事例では、下水汚泥を利用したバイオガスがあります。計算では、市内の下水汚泥がすべてガス燃料になると、年間2000台分の車の燃料になります。家庭ごみも焼却時の熱エネルギーから電気が取り出されていますが、議定書の京都市では焼却せず、発酵させて電気を取り出す試みも始められています。

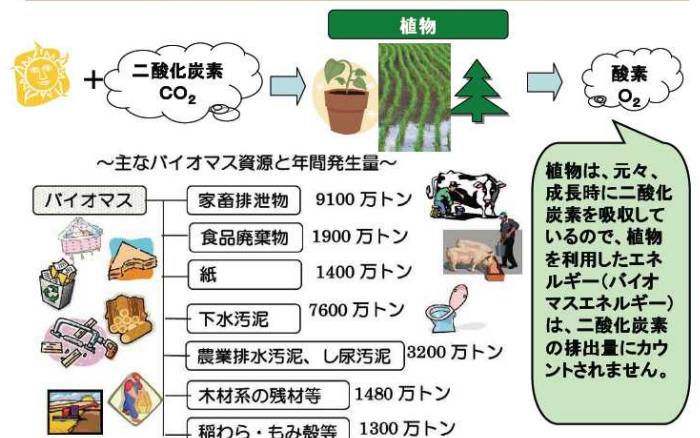


植物を利用したエネルギーは、CO₂排出量にカウントされません。エネルギーとして植物を育てるほかに、現在廃棄物として捨てられているもの(バイオマス資源)を利用することも考えられます。また、農業を活性化することで、資源循環と共に自給率の向上が図れます。

環境と経済が両立する社会を目指そう！！



資源循環 バイオマスエネルギー

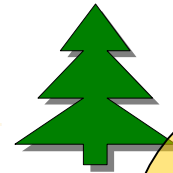
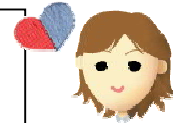


私たちは、江戸時代には見習うべきですが、全く同じ生活に戻ることにはなかなかできません。環境を保護しながらも豊かで便利な生活を送るには、ひとりひとりの意識の向上と共に、資源循環が促進され、化石燃料に頼らない再生可能エネルギーが発達しなければなりません。資源循環に向けた「規制」と「優遇」のバランスよい施策を施行し、環境面での公共投資を積極的に行うことで、省エネ製品や資源循環を促進し、再生可能な新しい技術を持つ産業や農業を伸ばしていくことが必要です。コスト論でなかなか発展しない資源循環やCO₂削減ですが、経済が発展する方向が更なる資源循環を促す方向になるよう、初めの一步を行政が率先してリードしていくべきと考えます。



ひろこ倶楽部だより

号外



号外
川原田版



民主党プレス民主編集部
東京都千代田区永田町1-11-1
電話 03-3595-9988（代表）
pree@dpj.or.jp
<http://www.dpj.or.jp>

**環境と経済が両立する
社会を目指そう！！**

～川原田弘子、これからやっていきたいこと～

**環境と経済
が両立する
社会を目指
そう！！**

環境先進都市「こうべ」の実現を！！

循環型社会の実現に向けて、最近では企業も環境に配慮したビジネス、環境にいい製品作り、などを行うようになってきました。個人の家庭でも分別・リサイクルが進んできてはいますが、温暖化は進む一方です。山や海を守って、資源を大切に作る循環型社会を早急に作らなければ、私たちの将来世代に、取り返しのつかない負債を残してしまうことになり、経済活動は、お金がたくさん動きさえすればよいもの。お金の動きを環境投資や循環型製品の消費に向けたような政策が必要です。神戸には、基礎となる技術を持ち合わせた中小企業や、新しいものを取り入れてきた気風、そして、消費地に隣接した農業基盤と、実現できる可能性がそろっています。環境にいい製品を作る地元企業や循環型のビジネスを展開する企業、自給率を高めて循環型社会の基本となる農業、化石燃料に代わる代替燃料の発展できるような政策を神戸から提言していききたいと思います。

垂水の元気が
高齢者を活か
したNPOの
立ち上げがで
きないか、検討
していきたい
です。



塩屋の町
にバスを
走らせたい！！



「食べて健康
になる」プロジ
ェクト、垂水か
ら発信してい
きたいと思っ
ています！！

貴重な垂水の
海を守って、伝
統ある垂水の
漁業がこれか
ら発展するよ
うに！！



そして生まれてくる子供すべてが幸せに！！

そもそも私が議員に立候補しようと思ったきっかけは、働くお母さんを支援しようと思ったことから。神戸市が子育てに力を入れているとはいえ、子育ての現場ではまだまだ。今後ずっと発言していきたいと思っています。私の世代にはちょっと難しかった仕事と子育ての両立、私は、今の世代を支援していきたいと思っています。「男女雇用機会均等法」から20年経った現在、変わってきているとはいえ、まだまだ社会は女性の雇用や仕事のありかたに保守的で可能性を閉ざしているところがあります。一度離職して職場を離れると、次の就職は大変困難です。子どもが小さい間は子育てに専念するという選択をされた方が、次に社会に出たときに困らないような仕組み作りもサポートしていきたいと思っています。「子供を育てるために引っ越してもらえぬ街」「虐待の無い、すべての子どもが幸せに育つ街」、大きくて大変な課題です。そしていつも心に引っかかっている里親制度の神戸での普及・拡充に努めていきたいと思っています。

**女性が
安心して
働ける
社会を
目指す
！！**

**先端医療が
受けられる
街、アジア
一の医療の
街に！！**

医療を核に、市民が潤い、健康になる街に！！

今、ポートアイランドでは、「再生医療」という全く新しい分野の医療において、基礎研究と共に臨床研究も進みつつある状況です。人が本来持ち合わせている「細胞や組織を作り出す能力」を研究・引き出すことによって、これまで難治の病気に治療の可能性も芽生えてきました。最先端の医療研究の街には、たくさんの研究者や企業が集まり、これからアジア一の医療の街目指して、羽ばたこうとしています。医療を核にして医薬品などの医療関連企業の誘致を図り、市の発展と雇用を増やしていく、市内中小企業の潜在能力を活かして医療産業機器のメーカーに育て上げること、健康をキーワードにした様々なプロジェクトにより、市民が健康に、そして企業に活力が出るように、などなど、市に課せられた夢のある課題は、尽きません。こうした取り組みを市民として誇りに感じ、発展・普及させることに力を注ぎたいと思っています。

うつ病対策や高齢化社会での働く場作りには引き続き取り組んでいきたいと思っています。

また、昨年の税制改正や自立支援法の施行など、高齢者・障がい者を取り巻く状況には大きな変化が起きようとしています。新しい制度が施行されても、本当に必要なところに、行政の福祉サービスがきちんと行き届くよう、しっかり見守り、福祉の街・神戸を後退させてはならないと思っています。

神戸市議員 川原田弘子事務所

〒655-0034
神戸市垂水区仲田3-1-8-202
TEL&FAX 078-709-8998
e-mail: happy@hiroko-club.com
ホームページ: <http://www.hiroko-club.com>



かわらだひろこ
川原田弘子

～経歴～

1959年12月 三重県に生まれる
1982年 3月 関西学院大学理学部卒業
1982年 4月 三菱重工業(株)神戸造船所入社
システムエンジニアとして勤務
1994年 三菱重工労組 女性委員
1999年 " 職場委員
2002年10月 " 特別執行委員
2003年 4月 神戸市議員立候補 当選
民主党県連常任幹事
2007年 2月 現在に至る